

第 8 号 「決定、リーダーグループ！ PCUR-LINK 事業はアタシたちの事業だわ！」

(平成 17 年 3 月 15 日発行)

～ PCUR - LINK 事業は、JICA でもソムニードでもマヒラ・アクションの事業でもないわ、アタシたちの事業なのよっ！～

3 月 1 日、2 日、3 日、第 1 次および第 2 次選考で生産・物流センター計画 & 運営委員会に選ばれた 8 グループのオバちゃんたちと一緒に SHG セミナーを開催した。このセミナー、1 日目は 8 グループメンバー全員が参加、2,3 日目は各グループから 2 名のリーダーが参加した。

1 日目には、同委員会の顔合わせと、これまでの 9 ヶ月間の事業の振り返り、センター建設までの大まかな計画の説明があった。2,3 日目には、前回に引き続き、まずは第 1 次選抜で選ばれた 3 つのグループのオバちゃんたちが 2 月の研修成果を、新たに第 2 次選抜で選ばれた 5 つのグループのオバちゃんに説明、その後、スタッフによる SHG 基礎会計研修が開かれた。

このセミナー、過去の研修と全く異なっていたのは、水戸黄門様や特別講師で参加したジャヤチャンドランが初日以外は、ほとんど口をひらかず、すべてのファシリテーションが、スタッフの手によって、行われたことだ。セミナー最終日には、スタッフも口を挟まず、オバちゃんたちだけでセミナーは進んでいったのだった。

このセミナーで実施される SHG 基礎会計研修のために、スタッフは毎日、毎日「金銭出納簿」と「銀行帳」、「貯蓄」、「融資」、「利子」などの補助簿の付け方を、読み書きの出来ない SHG メンバーにもわかるよう、特訓に特訓を重ねた。

セミナー開催 2 週間前に、水戸黄門様からスタッフへ厳しい指令が出た。「帳簿の付け方をオバちゃんたちに教えるんじゃない。彼女たちに質問しながら、彼女たちの理解を確認しながら、オバちゃんたちが自分で考えながら覚えてゆくような教材を開発するのじゃ。」

スタッフは、見事、この教材を開発し、セミナーに参加したリーダーオバちゃんたちは、2 日で、「金銭出納簿」と「銀行帳」、「貯蓄」、「融資」、「利子」などの補助簿の付け方を、覚えてしまった。練習問題で、仮想グループの 1 年間のお金の流れを、1 月から 12 月まで帳簿に付けていったオバちゃんたち。最初は椅子に座って、かしくまって、スタッフの言うことをフムフムと聞いていたオバちゃんも、昼ごはん近くなる頃には、椅子から下りて、ホワイトボード近くに座り込んで、「えーこれは、“入金”、これは“出金”に書くのね。わかった、わかった。」と 1 月ごとの練習問題もスピードアップしてきた。昼ごはんだってそうそうに切り上げて、練習問題を続けるオバちゃんたち。夕方 5 時近くになっても、誰も席を立たず、次々と練習問題を続けていった。

お茶とかトイレ休憩も一切なしに、集中していたオバちゃんたち。

セミナー 2 日目の午前中に、練習問題が終わり、オバちゃんたちが、「今後の委員会について話

し合いたい」というので、2 日目のお昼休みの前に、委員会の計画を話し合う時間を持った。この議論も白熱して、30分で終わるから、と言っていたオバチャンたちも、1時間半もかけて、今後どうするか、を話し合っていた。しかし、実際のところ、生産・物流センター計画&運営委員会に選ばれたのはいいが、一体、この委員会が何をするのか、全く検討もつかないオバチャンたち。話し合っても埒があかない。

そこで、黙ってホワイトボードの前に立って、なにやら描きはじめたジャヤチャンドラン 1。

ホワイトボードの右下に「SHG」、中央に「生産・物流センター計画&運営委員会」、左上に「生産・物流センター」と描かれている。

ジャヤチャンドラン(「SHG」のところを指しながら):「これは、結婚する前の状態だ。」

オバチャンたち:「結婚? SHG?」「なんの話かさっぱりわかんない?」

ジャヤチャンドラン(「生産・物流センター計画&運営委員会のところを指しながら):「この状態が結婚だ。」

オバチャンたち:「ふむふむ、8つの SHG が1つになって、委員会として活動を始めるということが、結婚と置き換えられているのかしら。」

ジャヤチャンドラン(「生産・物流センターのところを指しながら):「そして、この状態が出産だ!」

オバチャンたち:「出産?!」「どうしてセンターが出産なの????」

ジャヤチャンドラン:「あんたたち8つのグループは、ばらばらの SHG だったのが、委員会を結成した。すなわち、8つのグループで、結婚をしたばかりである。子どもを産むか産まないか、産んだらどう育ていくか、各夫婦が決めてゆくように、あんたたちも生産・物流センターという子どもを産むか産まないか、産むならどのように育てていくか(運営するか)考えなければいけない!」

オバチャンたち:「JICA とかソムニードが、センターで何をするか、考えてくれるんじゃないの?」

ジャヤチャンドラン:「あんたたちは、夫婦で子どもをつくるかどうか、子どもができたら、どう育てるか考えるんじゃないのか? あんたたちは、子どもを産むか産まないか、産んだら、その子をどう育てるか、他人に考えてもらうのか?」

オバチャンたち:「いんや、自分たちで考える。」

ジャヤチャンドラン:「あんたたちは、委員会が結成されて、いわば結婚したばかりだが、これから生産・物流センターという子どもを産んで育ててゆく気があるのか? 結婚生活があれこれと難しいことが多いのと同様に、委員会だっていくつもの障害を越えていかなければ、センターも産まれにくい、センターが出来ても、運営してゆくのは、本当に大変だぞ。それでも、委員会のメンバーでいたいのか?」

オバチャン1:「もちろん! アタシたち、委員会のメンバーでいたいし、センターという子どもも欲しいわ。でも、やっぱり色々大変そうだから、もう一度グループメンバーに聞いてみるわ。」

オバチャン2:「アタシたち、委員会のメンバーでもっと話し合う時間がほしいわ。」

そこで、お昼ごはん後も、オバチャンたちだけで議論は続いた。セミナー最後には、次の行動計

画を立て、発表したオバチャンたち。

行動計画1. グループに戻って、メンバーにもう一度委員会のメンバーでいたい、どうか確認する。

行動計画2. セミナーで新しく学んだことをグループメンバーと共有する。

行動計画3. 2004年度のグループの会計帳簿(4月から3月まで)を今回、習ったことを元に作成する。

行動計画4. 3月26日に、第1回委員会を開催して、今度の活動計画を話し合う。

今後は、オバチャンたちの立てた行動計画に沿って、事業を進めてゆく予定だ。

セミナーを終えて、リーダー・オバチャンの1人がつぶやいた。

「アタシ、ずっと前から“エンパワーメント”って何度も聞いたことがあったけど、この会計帳簿を付ける練習をしているうちに、これがその“エンパワーメント”じゃないか、と思ったの。」

オバチャンの感想を聞いて、目頭を熱くした水戸黄門様はじめ、スタッフ一同。

スタッフは、事業開始から9ヶ月間、一言も“エンパワーメント”なんて言葉を使わなかった。オバチャンたちが会計やセンター運営の技術を身につけ、その技術を持ってセンターを運営してゆく、しかも、その技術を他のグループへも伝えてゆけるようなスーパー・セルフ・ヘルプ・オバチャンになってもらうべく、今まで9ヶ月間、SHG運営に関連する具体的な研修を「教える」のではなく、「考えてもらう」ようにしてきた。

マヒラ・アクションのスタッフは、今までオバチャンたちから「先生」、「先生」と呼ばれていたのが、少しずつ「先生」ではなく、名前と呼ばれるようになってきている。

「教える」人も、「教えられる」人も、「援助してあげる」人も、「受益者」もいない。

この8グループのオバチャンたちを「パートナー」として、ようやく事業が始まった3月であった。

SHG セミナーその後:グループ・ミーティングにて

ここは、ビシャカパトナム市郊外の農村部。

小高い丘の斜面に沿って、小さな家が何軒も並んでいる。ココナッツの葉と泥の壁からできた小さな家が多い、なかには、ちらほらと、セメント製の壁や屋根の家もある。

10数年前頃、田舎からビシャカパトナムに仕事を求めて出てきた人々が、市内では、とても家賃が支払えず、郊外の空き地を占拠するようになった。そのうち、政府の役人と掛け合って土地の権利を獲得した人たちも出てきた。ここは、大工の人たちが多く住んでいることから、「カーペンター・コロニー」と呼ばれ、約150家族が暮らしている。

さて、このカーペンター・コロニーのオバチャンたち、亭主は左官や大工で、自分たちも仕事があれば日雇いの道路工事や建設仕事にでかけてゆく。カーペンター・コロニーで、PCUR-LINK事業と一緒に活動しているのはこの地域で最初に出来た1つのグループである。その他にも最近では、ビシャカパトナム県の農村開発局の勧めで作られたSHGが4つほど出来たそうである。今回、

生産・物流センター計画&運営委員会に選ばれたこのカーペンター・コロニーのSHGの名前を「シッディヴィナイカ・グループ」(ヒンドゥー教で顔が像で身体が人の神様。ガネーシャ神とも言う。)という。

前置きはこのくらいにして、グループ・ミーティングは、午後2時半から、3月に開かれたSHGセミナーの内容を、同セミナーに参加したリーダーが、グループメンバーと共有するところから始まった。

リーダー：「あんたたち、この絵をよーく見なさいよ。ここが結婚前、これが結婚、そしてこれが出産よ！（「結婚前」、「結婚式」、「ゆりかごに入った赤ちゃん」が描かれた絵が事前に準備されている。）

オバチャン：「ふーん、それで？」

リーダー：「今までは私たちは、この結婚前の状態だったの。SHGがあちこちで別々に活動していた、でしょ。でも3月に8つのグループが集まって、生産・物流センター計画&運営委員会を結成したわよね？これが“結婚”なのよ。」

オバチャン：「うん、うん、それで」

リーダー：「結婚するでしょ。そうすると子どもを産むとか、産まないとか、夫婦で話すわよね。子どもを産んだとしたら、どうやって育てるかも夫婦で話し合うわよね。」

オバチャン：「そりや、そうだ。」

リーダー：「アタシたち、3月に委員会が出来て、喜んでるけど、本当は今からが大変なのよっ！結婚したら、子どもを産んだり、育てたり、親戚づきあいたり、お金もかかるし、時間もかかるのと同じよ。今までみたいに自分のこと、自分のグループのことだけ考えてればいい、というわけにはいかなくなるわよ。JICAは、私たちが望むなら、400万円の生産・物流センターをアタシたちの子どもとして、最初の資金は支援してくれる、と言っているわ。もし委員会で、この子ども(センター)を育てて行きたい、と思うなら、今からどれだけ大変か、覚悟しなければいけないわ。それでも、シッディ・ヴィナイカ・グループとして委員会のメンバーになりたい？」

オバチャンたち：しばらく沈黙。

オバチャン1：「アタシは、やっぱり委員会のメンバーになりたいわ。」

リーダー：「このセンターという子どもを産むのも育ててゆくのも委員会なのよ。JICAもソムニードも、マヒラ・アクションもずっと一緒に育てていってくれるわけじゃないのよ。最初の2年半だけなのよ！すごく大変よ、それでもいいの？」

オバチャン2：「でも、これは、アタシたちの責任だわ。」

オバチャン3：「センターは、JICAでもソムニードでもマヒラ・アクションのものでもなく、アタシたちのものだわ。だから、産むと決めたら、ちゃんとアタシたちで面倒をみていくわ。」

オバチャン一同：「アタシたち、委員会のメンバーになりたい。そして、他のグループにだって、同センターにかかわれるよう、ちゃんと指導していきたいわ。」

リーダー：「それじゃあ、今からその一歩として、会計の帳簿の付け方を教えるわよ。いいわね、自分たちだけの会計じゃないのよ、これを覚えたら、委員会でも帳簿をつけるのよ。」

オバチャン 4:「アタシ読み書き出来んで、そんな帳簿付けなんて、無理だわ。」

リーダー:「そこで、事前に準備したB紙を取り出す。B紙は中央に線が引かれ、右側に「入金」、左側に「出金」と書かれているのみ。その他に、砂糖や小麦粉が入っているようなプラスチックの容器が2つ。それぞれ、「入金」「出金」と紙が張ってある。

リーダー:「読み書きできなくても、あんたは自分で買物できるでしょう。家計をやりくりしてらっしゃい。読み書きできる、できないは、関係ないわ。お金の動きがわかるよう、今から説明するからちゃんと聞くのよ！」

そして、リーダーによって金銭出納簿の付け方が延々2時間、説明された。

オバチャンのほとんど:「やっぱり、わからん。一度じゃ、全部はわからんわ。」

オバチャン 5:「明日から、昨年4月から今年3月までのグループの金銭出納簿を実際に付けながら、教えてもらった方がいいわ。」

リーダー(スタッフに向かって):「ちょっと、あんた明日から、偽のお金とか、ボードとか、3月のセミナーで作った道具を持って、うちのグループに来て、メンバーにわかるように説明するのを助けてよ。」

スタッフ:「あ、いいですよ。」 2

リーダー:「これで決定よ。明日から朝11時からと昼1時まで、昼2時から夕方4時まで、金銭帳簿付けの特訓よ！」

オバチャン 6:「昼の時間に家に帰ると、やれ洗濯だ、やれ人が来た、とかで気が散るから、お弁当持ってリーダーの家で朝から晩まで帳簿付けをやるわ！」

オバチャン一同:「それはいい考えね。お弁当持って、一日中やろう！」

リーダー:「いいわ、そうしましょう。それから、明日までに帳簿付けのために必要な計算機、ノート4冊、領収書を貼り付けるのり、鉛筆消しゴムを買いだいたいけど、いいかしら？」

オバチャン 7:「えっ、この間、政府の人から“この帳面を付けるとローンをあげる”、とか言われて政府が書式を印刷した帳簿を3冊買ったばかりじゃん。あれ150ルピーもしたのよ。また買うの!? 前のノートはどうなるわけ? もったいない!!」

リーダー:「でも、政府から買ったノートを見たって、個人の貯蓄とローンしかわからなくて、グループとしての貯蓄とかローンはわかりにくいわ。金銭出納簿とか、その他の補助簿を付けて、JICAの人が来たって、ソムニードの人が来たって、政府の役人が来たって、他のグループの人が来たって、この帳簿を見せればグループの活動がわかるような、帳簿が必要なよ。この帳簿はセンターでも付けていかなくちゃいけないのよ。」

オバチャン 8:「じゃあ、いいわ。金銭出納簿とかその他の補助簿をつけるのに、新しいノートを買っちゃいましょう。で、この間買った3冊のノートは、よそのグループで150ルピーで売りましょう。」

オバチャン一同:「それは、いい。売ってしましましょう。」 3

リーダー:「それから、買ったノートとか計算機とか入れるバックも買いたいんだけど、いいかしら? 今までビニール袋に入れてたけど、大事な会計帳簿類をやぶれかけてビニール袋に入れて

おくのは、よくないと思うの。」

オバチャン 9:「じゃあ、バックも買しましょう。ほら、銀行の人が持っているような鍵のついたやつがいいわ。」

オバチャン 10:「はあ？そんなの高くてグループのお金で買えないわ！いくらすると思ってるの？」

リーダー:「いいわね、欲しいわー、鍵のついたバック。でも今はやっぱり買えないから、せめてファスナーがついたバックにしようか？」

オバチャン 11:「まあ、その辺が妥当ね。計算機とかノートとか、バックとか合わせて、300 ルピーくらいあれば買えるわよね。」

オバチャン 12:「でも、100 ルピーくらいするカバン買わないと、すぐファスナーが壊れるわよ。買物行くときは余裕をもって、350 ルピーくらい持っていった方がいいんじゃない？」
と、ミーティングはまだまだ続く。

ほんの2ヶ月ほど前、グループの貯蓄、融資の返済金、新規の融資の決定だけで2時間、3時間もミーティングをしていたこのグループ。

この日は、普段のこうした活動は、ほんの20分で終了して、帳簿の付け方はもちろん、3月26日の委員会ミーティングには誰が参加するか、その時、どんな議題を話し合うか、そういう話ばかりで、ミーティング終わったのは、6時半過ぎ。ミーティング開始から4時間！そして、これからミーティングは、オバチャンたちの時間が許す限り、毎日のように続くのであった。

セミナー終了後、スタッフの誰も、リーダーに対して、グループ・ミーティングの際に、紙を用意したり、箱を用意したり、絵を描いたりして、メンバーにセミナーの内容を共有しろ、とは言っていない。このシッディヴィナイカ・グループだけではなく、8つのすべてのグループが、自分たちで入手可能な道具(カレンダーの裏、B紙、プラスチックの箱)などを使って、いろいろ工夫して、グループのメンバーにセミナーの内容を伝えていた。

リーダーたちの中には、ジャヤチャンドランや水戸黄門様のように、メンバーを質問攻めにして、メンバー自身に色々考えてもらうよう、試行錯誤している。その上、委員会に選ばれた8つのグループは、選ばれなかった残りのグループに対して、また新しくグループを作りたい、と言っている近隣のグループに対しても、「自分たちがきちんと教えてあげられるように、まず自分たちが色々覚えなくては」と、“選ばれた”という責任を感じ始めている。

オバチャンたちの間では、「アタシたちの子ども(センター)を産み、育てる」にはどうしたらよいか、もう質問がいっぱいだ。そんなオバチャンたちは、9ヶ月前の7月9日、「“じゃいか”とか、ソムニードとか、マヒラ・アクションが、何かくれるかもしれん。」と事業開始式に来たオバチャンたちとは、全く異なっているのだった。

次号のオバチャンたちの活躍を乞うご期待。

1 ジャヤチャンドラン:PCUR-LINK 事業では、お馴染みSHGのスーパーファシリテーター。本

人はとても無愛想で、近寄りたがたい無口な同氏だが、アーンドラ・プラデシュ州でもタミル・ナードゥ州でもオバチャンたちに絶大な人気を持つ。昨年9月から12月にかけて、ビジャカパトナムのオバチャンたちは、ジャヤチャンドランの NGO(タミル・ナードゥ州チェンナイ)へ視察に出かけている。(オバチャンたちが、7ヶ月前に同氏にコテンパンに叱られた詳細は、第2号を参照。)オバチャンたちを厳しく叱れば、叱るほど、ファンを増やすという点が、水戸黄門様とよく似ている。

2 今まで、オバチャンたちから「やれローンをくれ、やれガストーブをくれ」としか言われたことがなかったのに、初めて「あなたの技術で、金銭出納簿の付け方をメンバーに教えるのを助けてほしい」と言われたスタッフ。オバチャンに指図を受けた感じで戸惑いはあるものの、嬉しいスタッフ。

3 オバチャンたちの決して無駄を許さない毅然とした態度に拍手。
